

①新しい居住 ②ス タイルの現場から

長期的な展望に立ったまちづくり計画が都市を再生させる

人が住みたくなるまちづくり(福岡県北九州市)

ナビゲーター
北九州市企画政策室
*Kitakyushu a plan
production room*

一七七年をかけて
都心部回帰の環境づくりを実現

かつて公害問題などが起こったこともあり、北九州市はいまだに工業都市としてのイメージが強い。だが実際には、地理的条件を活かして東アジアの中心都市へと脱皮を図りつつ、過去の公害体験をもとにゼロエミッション都市を目指すなど、全く新しい都市に生まれ変わっている。

その象徴とも言えるのが、北九州市を南北に流れる紫川だ。「昔は真つ黒な川でしたが、今は親水空間もでき、子供たちが裸足で水遊びができるほどきれいになっています」と北九州市企画政策室の中本成美主幹は言う。「都市を再生するための長短の計画を立



景観づくりのために昔の木の橋が再現されている

大都市の中心部を流れているとは思えないほど美しく、また親水空間が整備された紫川





かつて新日鐵の社宅があった八幡高見地区は、その抜群のロケーションを活かした町づくりが進められ、今や“九州のビバリーヒルズ”と言われるほどの住宅地に変貌している



都心部で暮らすためのインフラの整備なども積極的に進められている八幡高見地区



かつてサッポロビール工場があったJR「門司駅」の北側は、現在、「海峡未来都市」と名付けられた、海沿いのニュータウンとして開発が進められている



「海峡未来都市」という名のとおり、海峡を見わたせる敷地には、次々と新しい住宅が建てられている



JR「小倉」駅前には、住宅地を結ぶモノレールの駅乗り入れに伴って再開発が行われた



「北九州モノレール」は、住民の利便性を図った路線ということもあり、単年度黒字という優秀な都市交通でもある

北九州市企画政策室

【連絡先】

〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1
 TEL 093(582)2158
 FAX 093(582)2176
 HP <http://www.city.kitakyushu.jp/>

て、その実現の進度も公開し、市民の評価も踏まえながら、一七年かけて新しいまちづくりを着実に進めてきました”。具体的には、新しい産業を創出・育成するために早稲田大学をはじめとする大学や研究機関などを誘致。また、二四時間使える空港や大水深港湾などの物流拠点を整備するとともに、それらを結ぶ高速道路路網の建設など、新しい北九州市へ生まれ変わるための長期計画を立て、その実現を進めてきた。

その一方で即効的な施策として、「門司港レトロ地区」整備などによる観光客の誘致を図り、かつての四倍もの観光客が訪れる都市へと生まれ変わっている。「即効性のある事業を進めることで、目に見える実績を上げながら、長期的な将来ビジョンに向けての計画も進めました」。かつて大工場で働いていた人々が大幅に減る中で、人口減を最小にとどめることができているのも、この将来を見据えた都市再生計画が着実に成功しているからだ。

そして今年度からは、「都心部への住民回帰」を計画目標の一つに掲げ、市民が「まちなか」で快適に暮らせる都市づくりに着手した。「一七年かけてのインフラ整備が進み、市民のみなさんに、まちなかに住むことの便利さや魅力を再認識してもらえ、環境になりました」。生まれ変わった北九州市の中心部は、大都会とは思えないほど空間的なゆとりがあるだけに、近い将来、魅力ある住むに相応しい都市として、さらに注目を集めるに違いない。

(文責・CEL編集部)

CEL